

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2770300867		
法人名	フラッシュ日乃出産業株式会社		
事業所名	グループホーム日乃出		
所在地	大阪府寝屋川市宇谷町10-1		
自己評価作成日	平成 22年 2月 28日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人を中心とした規則にはめないケア。本人の目線で、日々より良い生活が出来るように取り組んでいる。四季折々の花が楽しめる緑豊かな日本庭園、自然に触れ合う花造り、森林浴、家庭菜園とさまざまな場面で心地よい時間を過ごして頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770300867&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 4月 28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、介護保険制度がスタートした翌年、寝屋川市で一番早く設立されたグループホームです。管理者は、地域への貢献を第一に福祉の勉強をし、それまでの事業から転進してグループホームを開設しました。法人名の『フラッシュ日乃出産業』には、誰にでも同じように太陽(の光)があたるような事業をしたいとの思いが込められています。その思いは理念にも表しており、日々利用者本位のケアが実践されているホームです。敷地内の広い日本庭園には池があり、せせらぎが聞こえます。柿や栗、梅が実り、収穫することも利用者の楽しみに繋がっています。庭園で外気に触れ、おやつや食事を楽しむこともあり、利用者の気分転換に繋がっています。居室やリビングからも庭園を眺めることができます。利用者は職員と笑顔で会話を楽しんでいます。ホーム内に笑い声が響き、一人ひとりが楽しく生活している様子が伝わりました。また、一人ひとりの生活歴を丁寧に聞き取り、どのような生活を望んでいるのか、何が好きか等を把握し、利用者一人ひとりに何が出来るのかを職員間で常に話し合いながらケアを実践しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」という理念を掲げ、各会議時・朝礼時に唱和している。	運営方針に「地域とともに歩む開放された施設を目指す」等、地域密着型サービスの役割を明確にしています。事業所理念は、「笑顔で、明るく、大きな声で、腰を低く」「笑顔とふれあいの家」というわかりやすい理念を掲げ、笑顔で、普通に生活できることを重視したケアを目指しています。利用者の笑顔や笑い声から、理念が実践につながっていることが伝わります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩コースは、地域公園を中心としている。 小学校の運動会イベントに参加している。 子供110番の設置。	丘陵地にあるホームの周辺は、現在区画整理中で、工場と新設の高層マンションのみで商店もなく、日常的な近隣とのつながりが難しい環境です。その中で、丘陵地の眼下にある小学校との交流や地域公園への散歩に出かける中で、少しずつ交流を深めています。	隣接マンションの自治会と交流を図っていましたが、年ごとに役員交代があり、継続した交流が難しい状況です。引き続き、運営推進会議への参加依頼や、高齢者認知症介護の理解等に向けた地域活動に取り組むことが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運動会の開催及び、近隣小学校へ運動会の応援メッセージを届けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、利用者家族・近隣施設職員・市高齢介護室をまねき 会議を開いている。意見や情報の交換を行い、会議録を回覧し、御家族へも配布を行い、情報の共有を図っている。	運営推進会議は規程を定めて2か月に1回実施し記録に残しています。会議は、ホームの行事報告や地域の課題が報告され情報交換の場となっています。また、スプリンクラーの設置など、ホームの課題や現状を説明し、利用者の安全やサービスの向上に向けた取り組みに理解を求めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回は、広報誌を持っていく事により情報交換・コミュニケーションを取っている。府にも開設当初と同様に広報誌を持っていっている。	ホームの様子が伝わるように広報誌を毎月届け、協力関係を築くよう積極的に働きかけています。市の担当者が交代の都度、ホームの見学に来るなど、市との関係が構築されています。事故報告はこの数年ありませんが、骨折など医療の必要な場合の事故は記録に残し、報告しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加している。一時的に拘束が必要な場合には、家族にも現状を説明し、理解を頂いた上で承諾書ももらっている。定期的に必要性を検討し、継続するかどうか決定している。一人で外出をしそうな時等はそのまま散歩に連れ出し気分転換を図っている。	管理者、職員ともに身体面・精神面・社会面からも拘束することの弊害を理解しています。日中玄関の鍵は、開錠しています。安静が必要な方で、家族に同意を得て一時的にベッド柵を両面に設置したことがありました。様子を見ながら期間を区切り、柵を除去しました。日頃から行動制限しないケアの実践に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料の回覧をしている。 職員は、お互いに気を付けるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。 必要な方は、家族の問題であり 当施設では、関わらないようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や契約時に十分説明をし、理解を得られた方のみ入所されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時等に耳を傾け、意見を聞いている。面会簿にも家族からの意見を記入できるようにしている。	家族の来訪時には、職員から積極的に声をかけ、要望や意見が出せるよう働きかけています。家族との信頼関係が構築されてきており、直接、苦情や要望を聞くことが多くなりました。買い物時にお酒購入の代行や、「外出の機会を増やしてほしい」などの要望は、ホームの課題として掲げ、運営に反映しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議・主任会議・合同会議を月1回行い取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、職員がいつでも自由に発言できるよう各種会議の機会を設けるとともに、日頃から職員とコミュニケーションを図る姿勢を持っています。利用者の受け入れについても、職員の意見を取り入れて検討しています。また、職員のモチベーションが上がるように、研修会の情報提供も積極的に行っています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>昇給や、資格試験受講料50%施設負担にしている。 職員の希望を聞いてコンサート等へ参加するようにチケットを配布している。 又、誕生日の当日にバースデーケーキとお花のプレゼントを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等、必要に応じて実施している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	基本的な考え方が違う為、出来ない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と別で面接を行い、本氏の声を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に、十分な時間を取り話し合うようにしている。 必要があれば、電話相談にも応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業所やデイサービス等の利用も含め、何が一番本氏にとっていいのか検討するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の型にはめず、本氏に合わせた介護に取り組んでいる。喜怒哀楽、全てを大切にし特に利用者・職員共に笑顔が見られる事を重要点としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見等の行事への参加。面会・外出・外泊等 家族との絆が切れないよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会も家族の時と変わらず行ってもらっている。本氏や家族の希望は出来る限り協力するようにしている。	入居前の生活歴や入居後の会話などから人間関係を把握し、記録に残しています。入居前から礼拝に行っていた教会の友人が訪問に来るなど、今までの繋がりを支援しています。家族への年賀状の代筆、孫の結婚式への参列、遠方への旅行の段取りなど、利用者が社会とつながるように支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者には談話の場を作ったり、会話が得意でない利用者には職員が会話を促したり、問題発生時には解決に取り組むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりは、家族の問題と捉えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、本氏の希望を捉えるようにしている。 可能な事は、生活に反映させている。	利用者、家族の希望を具体的に記録に残しています。すべての職員が記録を確認することで、日々のケアに活かしています。また、入居後も一人ひとりの暮らし方の希望や意向について把握しています。家族旅行へ一緒に行きたいとの希望について、支援する取り組みを行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少期～年代別にあった事項を記入してもらっている。これらを基にコミュニケーションを取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タイムサイクルを記録として残し、ケアカンファレンス会議により1ヶ月単位で見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員で、アセスメント・モニタリングを行い 月に1度のカンファレンスで意見交換を行っている。結果を介護計画に反映させている。家族に対しては、定期的に説明を行い理解を得ている。</p>	<p>利用者一人ひとりの現在までの詳細な生活歴、身体面・精神面・コミュニケーションなど「できること」「支援があればできること」「できないこと」を把握し、記録することで情報を共有しています。また、一人ひとりの「ニーズ表」を作成し、より質の高い生活を目指した具体的な支援計画を作成しています。毎月、目標に沿った支援ができているか、チームで話し合いを行っています。</p>	<p>次のステップに向けて、利用者がホームで楽しんでいる様子が伝わるような日々の記録の工夫や、プラス面の評価についても家族に伝える取り組みを始めてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>主任と計画作成者が主となり、毎月カンファレンス会議をし、スタッフの意見交換を行い 個別のカンファレンスシートを作成している。欠席者に対してはカンファレンスシートの回覧を行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>可能な限りニーズに答えるようにしている。併設のデイサービスとの交流も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市、行政の意識が低いように考える。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科往診を行っている。又受診や通院は、基本的には看護師が同行するが、家族の協力も 願っている。	かかりつけ医については、本人、家族の希望を重視しています。通院や受診の方法についても本人、家族と話し合いのもと支援をしています。日常的に看護師の健康管理や、緊急時、夜間も相談できる医療機関との連携ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の看護師が中心になり、職員全員で利用者の体調を把握するようにしている。往診Dr.とは常に情報交換ができており、緊急時には すぐに対応するように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、看護師が主に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「出来る事、できない事」は基本的に決めていて、家族には契約時に説明している。職員にも その都度方針を説明し、共有できている。</p>	<p>看取りについての基本指針を定めており、事業所の対応できる範囲を示しています。医療行為の必要時には医療機関への受診、食事摂取が困難な場合は、家族や医師、看護師と相談し随時、利用者にとってよりよい方法を検討しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>月1回のフロア会議で勉強会や実践講習を行っている。いつでもすぐに見られるように マニュアルも備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回避難訓練を行っている。近隣の方へも、非常時に協力して頂けるよう話し合っている。夜間の連絡体制も整えている。スプリンクラー設備も設置済みである。</p>	<p>災害発生マニュアルを作成し、消防署と連携をとり、年2回、夜間の出火も想定した防災訓練を実施しています。会議でも、漏電防止について話し合いを行い、コンセント周囲の埃を除去することを徹底するなど、年間を通じて災害対策に取り組んでいます。非常食のレトルト食品や水の備蓄もしています。また、AED（自動体外式除細動器）の学習会も実施しました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等でも重ねてプライバシーの保護について注意している。 個人情報の取扱いにも留意し、守秘義務について職員は十分理解できている。	おむつ交換は、プライバシーに配慮して居室内で行い、カーテンを閉めるなど、注意を払っています。利用者に失礼のないよう、日頃から職員の身だしなみや電話対応についても、会議で注意を促しています。	長く入居している利用者との関係において、名前を「ちゃん」付けで呼ぶことや、無意識に人前で「トイレに行こう」と誘導することが普通のこととなりがちですが、今後も意識して対応することが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重するように心掛けている。レクレーション時等は、それぞれの「やりたい事」を尋ね対応するようにしている。たとえ意思決定が困難な場合でも、声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り 本氏のペースを大切に支援を行っている。強要や無理強いはないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が支援を行うようにしている。理美容に関しては、家族の理解を得て当施設内にて訪問理容で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、ADLの低下によりスタッフのみで行っている。利用者の現状に合わせた食事提供をしている。利用者と同じテーブルで職員も食事を行い、常に利用者のサポートが出来るようにしている。	以前は職員と一緒に調理をすることもありましたが、重度化に伴い現在は職員が中心に調理をしています。利用者は片付けや食器を拭くなど、できる範囲で参加しています。食卓テーブルのすぐ側にキッチンがあり、調理の音や香り、食材を目にするなど、五感を刺激する環境になっています。また、庭の栗や柿、梅を収穫し漬けるなど、食に繋がる楽しさを提供しています。	希望や状態に応じて、パンを粥に変えるなどの工夫をしています。今後は、更に利用者の好みを取り入れた献立の工夫が望まれます。また、買い物への参加が難しい利用者には、届いた食材と一緒に整理し、季節を感じる野菜や果物に触れてもらうなど、少しでも食事作りの楽しみに参加してもらうよう工夫されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、記録に残している。 水分や栄養は、概ね把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた介助をし 口腔ケアを行っている。定期的な義歯洗浄も行っている。月1回のペースで口腔内の観察を行い、記録を残している。 希望者のみ 歯科往診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンを把握するようにしている。パット類は、使用するがトイレでの排泄が出来るよう心掛けている。	排泄習慣や排泄パターンを把握し事前に誘導することで、おむつ使用の減や排便のコントロールに繋がりました。排泄が自立している利用者の方にも衛生面を考え、1日1回は衣類を交換するように働きかけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎日のラジオ体操・歩行運動、便秘の解消につながる食事内容にする等、予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ずつゆっくり入浴してもらえるようにしている。気分がのらない時は、無理強いせず翌日と変更したりしている。夜間の入浴には対応していない。	週に2～3日の入浴やシャワーを実施しています。毎日入浴を希望する方がいる場合は、可能な範囲で対応しています。職員も1対1で利用者の習慣やペースに合わせてゆっくりと話をしながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を記録に残している。不眠等ある場合は、その都度 看護師と相談し、さらにフロア会議・カンファレンスで検討し 安眠できるように支援方法を工夫していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会議にて内服薬等の確認をし、看護師が管理を行い スタッフと情報を共有できている。誤薬についても情報を共有できている。何度も話し合い改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の片付け・新聞取り・食事後の片付け・食器洗い・掃除機掛け・花の水やり等参加して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩コースを地域の公園回りにしている。天気の良い日は庭でおやつにしたり、ベランダへ出て日光浴をしながら歌をうたったりと外出気分を味わってもらっている。年に数回、緑地公園や成田山初詣・紅葉狩ドライブと遠出の行事も盛り込んでいる。	日常的に近隣への外出がやや難しい環境に立地していますが、ホーム敷地内にある広い日本庭園には、日常的に出ることができ、日光浴を兼ねて庭でおやつを食べることもあります。家族の希望もあり、ホームの課題として外出支援を掲げています。近隣に商店がなく、買い物も出かけにくい状況ですが、職員もできるだけ地域の方と触れ合える機会や、買い物などに出かけられる機会を増やしていきたいと考えています。	庭やベランダでの外気浴は常に行っていますが、利用者一人ひとりの状態や希望に応じた個別での外出について、今後も積極的に取り組まれることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者より希望があれば、対応している。家族の希望により再三の求めには応じない場合もある。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所がある以外は、一般家庭と変わらない。季節に応じた壁画や飾りつけを行い 殺風景にならないよう工夫している。	門扉から石段を上がるとガラス張りの玄関があり、約400坪の敷地には池や桜や柿、栗の木などの季節を彩る日本庭園がひろがっています。リビングからも緑豊かな庭を眺めることができ、明るく開放感あふれる空間となっています。セミパブリックスペースにはソファがあり、食後に利用者がくつろいでいます。2階には大きな木製のダイニングテーブル、3階はいくつかのテーブルがあり、食後にゲームや会話を楽しむ場となっています。食器棚や台所の設え、調度品など、家庭的な落ち着いた雰囲気を感じられます。季節感のある壁画は、利用者と職員で作成し、飾っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時の席の他にソファを置き、利用者が団欒出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を家族に伝え、面会時に話し合っている。季節に応じて、居室にも壁飾りを提供して楽しい気分になってもらえるよう工夫している。	木製の家具が設置されています。利用者や家族が希望する身の回りの物は、安全面に問題のない限り持ち込みは自由です。鏡台や回転椅子、テレビを持参している利用者の方もいます。思い出の品々や家族の写真を部屋に飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等で対応している。トイレ等には目印をつけ分かりやすくしている。		